

# 我が家の食文化を見つめる授業

## —地域の食材を生かした行事食の実践を通して—

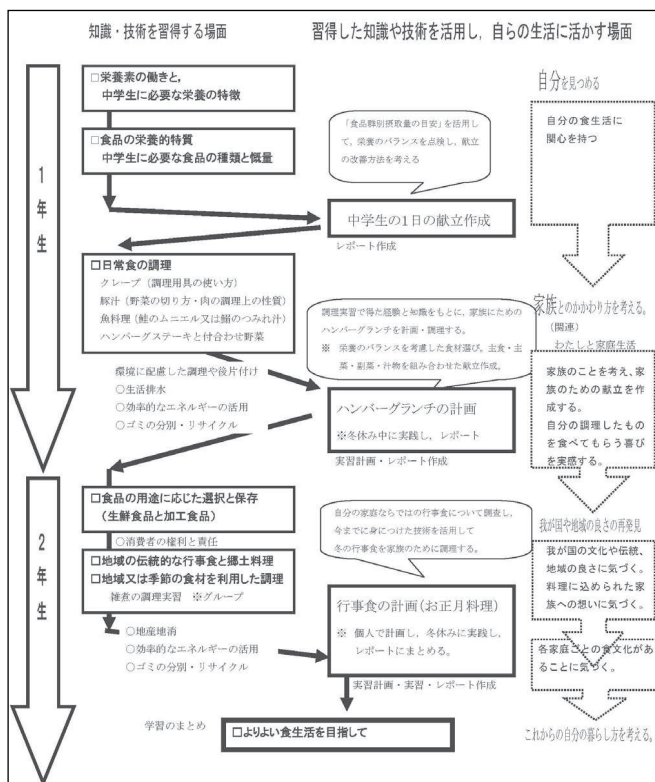
放課後も部活動や塾通いで毎日忙しい中学生。帰宅しても時間に追われて食事をとり、次の予定へ急ぐ。そんな毎日を過ごしている生徒は多い。また夜遅くまで仕事をこなし疲れて帰ってくる親と、時間を合わせて一緒に食事をとったり、ゆっくり会話をする余裕のない生徒もいる。

そんな生徒の実態から、行事食の学習を通して地域の食材や文化に触れさせるとともに、我が家の食文化を見つめ直したり、家族とのコミュニケーションツールとしての食事の役割に気づかせたいと考え、実践を行った。

### 1. 研究の概要

「伝統と文化の尊重」という方針から、今回の学習指導要領改訂では今まで選択の扱いになっていた「地域の食材を生かした調理の工夫」をすべての生徒に履修させることとなった。

図1「B 食生活と自立」指導の流れ



「A 家族・家庭と子どもの成長」(1)(2)を先に学習し、「B 食生活と自立」の学習でも家族の一員としての自分の役割や自分と家族とのかかわり方について考える場面を設定し、家族の一員であることを自覚する手立てとなるような展開を工夫した。

また、学習を通して得た知識や技能を活用して、課題を解決するために工夫し、創造できる能力と実践的な態度をいっそう重視する観点から「生活の課題と実践」に関する指導が盛り込まれた。

そこで、「B食生活と自立」の「生活の課題と実践」では雑煮の調査と調理実習をとりあげ、「我が家の食文化」に注目させるとともに、家族・家庭に関する学習と関連づける授業展開を工夫した。

指導計画作成では、自分を見つめるところから家族、地域へと視野を広げさせたり、本時と次時の学習内容を関連づけて授業に連続性を持たせるなどストーリー性のある系統的・発展的な指導計画を目指した。

また、「D身近な消費生活と環境」の内容と関連づけることで、家庭生活をより総合的にとらえた学習を展開し、社会において主体的に生きる消費者をはぐくむことができるようにした。さらに言語活動の充実のために、調査や実習計画、実習の振り返りの段階では繰り返しレポート作成に取り組みせ、調べた内容や自分の活動計画、気づいたことなどを図や文章で表現し、自分の考えの確認や深化を促した。

### 2. 指導計画（「生活の課題と実践～行事食を調べよう～」）

- 1 日本の行事食 (2時間)  
1年の行事、行事食カレンダーを作ろう
- 2 我が家の雑煮調べ (4時間)  
我が家の雑煮調査、実習計画、実習 (グループ)
- 3 行事食を作ってみよう (冬休みの課題)

